

「戦争の記憶を語り継ぐ」

岩見三内中学校 3年A組 石 塚 菜々美

「戦後80年」

日本は今年、戦後80年を迎えます。テレビや新聞では沖縄戦や広島・長崎の原爆被害について特集され、語り継がれています。一方、秋田はどうでしょうか。

私は社会の授業で、秋田の戦争遺跡の保存・継承が難しくなっていると聞きました。また、私たち中学生がかつて教科書で習った土崎空襲のことが、今の小学生が使っている教科書からは削除されてしまったとも聞きました。土崎は、太平洋戦争終戦前夜、日本で最後の空襲を受け、200人以上の死者や300人以上の負傷者を出したところです。先生はこのような現状を、大変残念だ、秋田の子どもたちに語り継ぐべきだ、とおっしゃっていました。

実は、私が住む岩見三内には「岩見三内サロン」という地域の憩いの場があります。私の祖父もよく参加しているのですが、一昨年そこで、戦争を経験した87歳から101歳の方々が、戦時中の配給制や勤労奉仕、出征、満州からの引き揚げ、シベリア抑留などについてお話をしてくださる機会がありました。私は直接聞くことができなかったのですが、語られた内容を、サロンが発行している「通信」で読むことができました。その中で、私が最も心に残ったのは、101歳の石塚ミエさんが語った「考えることを忘れてはならない。」という言葉です。この言葉から私は、自分で物事をよく見て、考え、その是非を判断することの大切さを知りました。

また、旧岩見三内村からは162名の戦死者が出たことも分かりました。その戦没者名簿を見ると、私の住む留見瀬町内からも遠くルソン島やニューギニアで戦死した人が何人もいらっしゃいました。その一人一人のお名前を読んでいると、どれほど無念だったろうと胸が痛みました。

社会の授業で先生は「戦争の歴史を知り、それを忘れないことが大切だ。」ともおっしゃいました。私は、今回学んだことを忘れず、戦争の愚かさと悲しみを語り継いでいきたいと思います。